

この度、7/19～29まで、「MBカナダチーム」から11名のメンバーが、日本の教会を巡回してくださいました。今回の特徴は、二つあります。一つは、カナダの二つの地方教会が、自分の教会の10代の若者の信仰訓練のために、来日したこと。もう一つは、様々な、人、団体のコラボレーションです。カナダの2教会、MBミッション、コーリー宣教師夫妻、英語キャンプスタッフ、滞在場所を提供された尼崎教会の吉田姉、そして、すべての日本MBの皆様の祈りと協力に感謝です。

***** 《いずみホープチャペル宣教レポート 田畑雅紀師》 *****

6/12(水)-24(月)の期間、Westside Calgary Chinese Alliance Church の宣教チーム5名が来日しました。1000人以上の大きな教会で、海外宣教への重荷を持ち、すでに数カ国に宣教チームを派遣しています。今回、日本への派遣が示され、いずみで彼らを受け入れることになりました。今回は、彼らと一緒に英語を用いた宣教を模索しました。関西大学の学生との交流、桃山大学の学生との交流、教会英会話生徒との交流、ミニバイブルキャンプ(教会青年交流)、CCCの学生との交流、教会のメンバーとの交流、MB伝道員会との交流、MB宣教センター及びMB教会訪問、路上生活者への炊きだし支援、イングリッシュカフェ、カナディアンナイト(2回)などを行い、この期間多くの人々と出会い、そのつながりは現在も継続しています。



宣教チームを受け入れることは、宿泊場所、奉仕者、企画、費用等、乗り越えるべき課題は多くありますが、それにまさる豊かな実があることは確かです。いずみは、7月にも韓国からの宣教チーム12名を2週間受け入れ、恵みに感謝しています。



【コーヒープレイク】



カナダからの中高生の働きを身近に感じ恵みと感謝を覚える一時でした。日本は昔からそばアレルギーは有名ですが、今回の若者の中には大豆、小麦粉、砂糖、等のアレルギーの方が少数でしたがおられ、食事の対応をしてくださり感謝でした。

【編集後記】：皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行：日本メノナイトプレザレン教団 伝道委員会

〒563-0032 大阪府池田市石橋2丁目17-10-B TEL:072-762-5731

発行者：田畑雅紀(伝道委員長) 編集者：板倉由貴夫(広報担当)

MB伝道ニュース



開拓伝道のビジョンを語る【17】



(OBC 担当責任牧師:阿部克己師)

聖書：コリント人への第I手紙 10章 33節

「私も、人々が救われるために、自分の利益を求めず、多くの人の利益を求め、どんなことでも、みなの人を喜ばせているのです」。

いつの時代にも、開拓伝道は必要不可欠です。この度「開拓伝道のビジョンを語る」のテーマを頂き大変嬉しく思っています。開拓伝道の実際を私達の証を交えてお話し致します。

1、開拓伝道への召し。

冒頭の聖句は私達が開拓に出された年にデボーションから示された言葉です。他のみ言葉からも確信しました。それは、次のようなみことばで確信と力が与えられました。イザヤ書55章4～5節

「見よ。あなたが、あなたの知らない国民を呼び寄せると、あなたを知らない国民が、あなたのところに走って来る。これは、あなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者のゆえである。主があなたを輝かせたからだ。」 さらに1975年、私達夫婦に与えられたみことばは、マタイの福音書18章19節「あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。」これらのみことばを信じて開拓に向かいました。

2、祈りがビジョンを確かにしてくださいます。

開拓には祈りと重荷と責任が欠かせないと思います。派遣され年月が過ぎるにつれて挫折、落胆、生活の困難などが起きて来る度に召しが試されました。その都度、私達は主からの召しの確かさが戻る事ができました。

3、開拓には人材が重要です。

多くの方々の祈りから生み出された人材がもっとも大切だと思います。どの様にして人材を見分けるか。本人の自己主張だけではわかりません。神様の導きと本人が思っている、それが正しいかがわかりにくいのです。ある宣教団体では、本人の証しと幾つかの質問、そして牧師、教会員、異なった場所におられる知人の7名の推薦状を求めておられます。

4、伝道活動の実際。

派遣された町の必要性のリサーチです。何がその地域に必要なのかは、地域の方々との交わりによって知りますが、すぐには分からないと思います。

そこで、アイデアと実行です。清められたアイデアを生み出す。そこにも、「人々が救われるために、自分の利益を求めず、多くの人の利益を求め、どんなことでも、みなの人を喜ばせているのです。」と言われる言葉を実践することが求められると思います。具体的に人が導かれたなら、主が弟子に仕えたように、伝道者は心低くして仕える姿勢を保つ事です。人を自分よりも優れたものと思い、聞く心が必要です。相手の方が、聖書の事を知りたいと言われた時には、素晴らしい伝道をしている事のしるしです。私達は、最初か

ら地域の集まりや町会の集まりで紹介してもらいました。敬老の日にはお祝いを持って行き、子供会の活動には参加させていただきました。家内は公園デビューして、近隣の母親との交わりを大切にして、アパートの我が家でお茶の持ち寄り近所の母親たちを招待して地域の方々と溶け合う機会を持って来ました。私は毎日、町に出掛けて教会案内を配布したり、トラクトを配布しました。その時に出会う方と語り合う事が町の一員に入る心構えをしられました。

開拓伝道は楽しい気持ちを持ち続ける事が大切だと思います。全てが順調には行きません。失敗、失望、落胆など次々におこります。私たちは今も大事にしている聖書のことばがあります。ヘブル書12章2節です。「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。」

このみことばは、失望、落胆、人間不信に落ち込んだ私には手を取って引き上げてくださる神様の言葉です。教会堂と言う設備が与えられると教会の建物の内側に心が移り、出て行って福音を伝えるより、来てもらって福音を伝えようと心が変わってきます。日本の教会での牧師とは、敷地内の草取り、周りの清掃、教会内の汚れの掃除、訪れる方々への対応、自分の時間と学び、準備の時、あるときはお金がないので、貸して欲しいと来られる人、出会う人の必要は、私たちの思っているキリストの救いを求めている方はほとんどいません。しかし、伝道者には常に地域のニードと実行を伴うアイデアとを失ってはいけないと思います。

5、群れの成長のために

信じた方々の成長のために、キリストを信じてしっかりと群れの中で人々に仕え、自分に与えられた奉仕に責任を持ってクリスチャン生活を送る事、それが周囲の人々への証となって実を結ぶこととなります。今も開拓伝道の召が与えられる方が起されるよう祈っています。

***** 《2019 カナダ宣教チームプログラム 各教会の報告》 *****

7月19日～7月29日までの10日間の滞在となりました。オリエンテーション、礼拝、イングリッシュキャンプ、京都観光、MB教会での活動など。26日(金)～28日(日)にチームは3つのグループに小牧ホープチャペル、 堺中央教会、能勢川教会と他1教会にて。

English Bible camp の報告 鹿島望師（豊田東キリスト教会）

7月22日～24日まで能勢川バイブルキャンプ場で English Bible camp が行われました。



当初参加者が7名で開催が危ぶまれましたが、多くの方々の祈りに主が応えて下さり、最終的にはMBだけでなく様々な教団から多くの参加者が与えられたcampとなりました。

今回のcampでは、「イエス・キリストを知らない人々に福音を伝える」ことを掲げて準備を行ってきました。そのため、未信者の方にも積極的に案内を行いました。その甲斐もあり、英語に興味を持った未信者の方々もキャンプに参加して下さり福音を届ける良き機会となりました。

もう一つ、今回のcampで恵みと感じたことは、campスタッフ、キッチンスタッフ、そしてカナダチームが1つのチームとして宣

教に関わる事が出来たことです。互いにフォローをしあい、励まし合い、キャンプパーに仕える事が出来ました。

そのため、初めは文化の違いやはずかしさも入り緊張気味の参加者も、日を追うごとに打ち解け、国を超え同じ主を見上げる時となりました。



お祈り、また支援をありがとうございました。

カナダチーム報告 藤野純一師（小牧ホープチャペル）



カナダからの宣教チーム、アレックス君（14歳）、ナタリーさん（14歳）、ゾイさん（15歳）、お世話役のデイクさん（62歳）ら4名が、7月27日(土)、小牧ホープチャペルで恒例の「ファン・ファン・イングリッシュ・サマー」に全面協力してくれました。教会で英会話教師のマーク・ケイン先生ご夫妻が、企画、運営され、ダビデとゴリアテのお話、ゲーム、工作、そうめんの昼食など。小学

生以下が19名参加で、保護者やスタッフを含めると総勢40名。久しぶりに教会が満員御礼でした。翌日の礼拝では、ゾイさんが通訳を通してのお証を初体験。メンバーにとって、日本の夏は、思ったよりも大変で、体調を崩す人もいました。デイクさんが「何歳になっても中高生を指導することができる」と、若い人たちの自主性を重んじた導きをしておられたことから、私たちも大きなチャレンジを与えられました。



カナダチーム報告 杉 貴生師（堺中央キリスト教会）



当教会では昨年アクションチームで奉仕されたリアム兄を含めて5名のメンバーがご奉仕くださいました。初日は英会話教室の特別プログラムとして English Café を行いました。これは実際にカナダのカフェを疑似体験するもので、カウンターでオーダーし、カナダの通貨で支払いをします。

テーブルでは楽しいディスカッションが繰り広げられました2日目は教会学校と合同で、小学生対象のデイキャンプに出掛ける予定でしたが、台風のため室内でのプログラ

ムに変更になりました。しかしそれが幸いし、内容豊かな楽しいキャンプとなり、子どもたちはとても満足して笑顔で帰って行きました。その日の夜は中高生・青年を対象とした集会を行い、40名近くの参加者が与えられて感謝でした。翌日曜日の礼拝では、証しと賛美をささげてくださいました。礼拝後は特製カレーとサラダのピュッフェを味わいながら、最後の交わりの時を楽しみました。恵みの機会が与えられて感謝でした。

